

変化を恐れず 挑戦・創造しつづける堺



堺市消防局長 西尾 学

まず、はじめに令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に深く哀悼の意を表します。

当消防局は、令和6年4月1日現在、管内総人口92万2,454人、職員数1,078名の組織体制であり、特別高度救助隊（愛称：フェニックスレスキュー）やドクターカー運用の特別救急隊（愛称：フェニックスアンビュランス）を擁し、大阪府南部を代表する消防機関として、市民の安全安心を守っています。ここにその一部の取組をご紹介します。

①消防の連携・協力

消防の連携・協力の取組として、和泉市と消防指令業務の連携・協力を、令和6年12月の運用開始に向けて協議を進めています。

また、泉大津市と40m級はしご付消防自動車の連携・協力を令和6年4月に開始しました。

②救急需要への対応

高齢化の進行等により増加する救急需要に対応するため、令和5年10月に救急需要が特に多い平日の日中時間帯に活動する「日勤救急隊（本部機動救急隊）」を創設し、日勤救急隊が救急需要の多い地域に移動し対応することで、より迅速な救急対応に繋がっています。

③第76回全国消防長会総会等

初めて本市を開催地として、令和6年5月29日・30日の2日間で全国消防長会総会等を実施しました。

大阪府知事、総務省消防庁長官をはじめ、全国の消防長など総勢550名以上のご臨席を賜り、令和6年能登半島地震による教訓に基づいた震災等大規模災害対策の更なる重点的推進にかかる緊急要望書が議決されるなど、防火・防災、救急体制の一層の強化における消防の担う重責を感じるとともに、強靱でしなやかな社会基盤の実現に向けて思いを一つにすることが出来ました。

④民間活力等を活用した消防行政の推進

令和5年10月からトヨタ自動車とドライブレコーダーの映像を消防活動に活用する、共同実証実験を行っています。

災害地点付近を走行する車両のドライブレコーダーの映像を消防指令センターで閲覧し、災害現場の状況を詳細かつ正確に把握することで、より迅速で適切な消防活動を展開し、被害を最小限に抑え、更なる安全安心の確保につながればと考えています。

最後に

当消防局では、熱意を持って職務に取り組むことができる職場環境を構築するため、「ハラスメントの撲滅」を掲げ、さらに「検証」と「進展」を重要なテーマとして、あらゆる業務の必要性と目的、効果を検証し、必要に応じ進展させる意識の醸成を図っています。

また、「徹底した安全管理意識」と「DXを活用した業務の効率化」を強力に進めています。

市民の安全を守り、安心を与える第一線の防災機関として、職員一丸となり全力で職責を果たして参ります。